

開通で広域交流強化 県北高速幹線道路開通式

「みやぎ県北高速幹線道路第Ⅲ期(佐沼工区)完成記念式典」が12月17日、佐沼ICで開かれ、村井知事や熊谷市長など関係者80人が出席しました。

これにより、栗原・登米間を結ぶ全長24^{km}のうち、2013年度から整備を進めてきた佐沼工区の3.6^{km}の区間が完成。県北部の広域交流強化、産業・観光振興、救急医療活動の支援、渋滞緩和などに結びつく、高速道路ネットワークが構築されました。熊谷市長は「横軸がつながったことでいろいろな形での発展が期待されます。特に企業誘致などには、非常に優位に働くとおぼやかす」と期待を込めました。



佐沼工区の開通を祝い、村井知事、熊谷市長、小野寺衆議院議員らがテープカットに並びました。

市長との意見交換会 中学生がまちづくり提言

「移動市長室」は12月1日、米山中学校(生徒229人、鈴木光之校長)で開かれ、同中3年の生徒71人が熊谷市長に市への提言を述べました。

移動市長室では、生徒たちが産業・特産品・観光についての現状や問題点、改善案などを発表。「特産食品のスタンプラリーを企画してはどうか」「地域と協力してごみの無いきれいな町づくりを」といった意見が出されました。発表後、生徒を代表し、佐々木謙太郎さんが「こうした場で、直接意見を伝えることができ、やりがいを感じました。今回学んだことを生かし、登米市に貢献していきたいです」と、感想を述べました。



発表を聞いた熊谷市長は、現状を踏まえた上での今後の登米市の施策について生徒たちに説明しました。

にぎわいを届けたい 高校生が投影映像を制作

追町佐沼大網地区の「第20回おおあみイルミネーションロード」(大網商工振興会主催、遠藤光則会長)で12月11、16、23日、1月14日の4日間、登米総合産業高生がプロジェクションマッピングを上映しました。

同地区のイルミネーションは、地域ににぎわいを取り戻そうと12月11日から1月14日まで点灯。歩道脇に灯されたイルミネーションと共に高校生が制作した投影映像が地域を明るく照らしました。遠藤会長は「コロナの影響で多くのイベントが中止される中、登米総合産業高の協力で地域に一層の賑わいを届けることが出来て大変うれしく思います」と話しました。



遊佐内科医院をスクリーンにして上映された四季やクリスマスイメージした音と映像が、来場者を楽しませました。

安全安心な園目指し アニメで教わる防犯教室

「防犯教室」は12月14日、豊里こども園で開かれ、同園の職員と園児237人が、登米警察署員から不審者への対応を学びました。

防犯教室では、犯罪から身を守るための合言葉「いかのおすし」について、DVDでアニメを見ながら歌やダンスを交えて学習。上野律子園長は「11月9日に起きた不審者侵入事件を受け、改めて子供たちに防犯の意識を持ってほしく、登米警察署に協力いただいて開催しました。今後も紙芝居による呼び掛けや職員向けの研修などを実施し、防犯への意識付けを続けていきたい」と話しました。



防犯教室後、事件発生時に被害拡大を防いだとして、県警察本部と登米警察署から感謝状が贈呈されました。

登米の農産物を堪能 給食に地元産食材を提供

市内で栽培された「だて正夢」の新米と登米産牛が、12月8日から22日まで、市内全ての公立幼稚園や保育所、認定こども園、小中学校の給食で提供されました。

地元産食材の提供事業は、市が全国に誇る農畜産物を子どもたちに知ってもらうことが目的。12月20日には、生産者の千葉明広さんと三塚浩之さんが佐沼小の5年93人に登米市の稲作農家と畜産農家が連携する資源循環型農業について説明。農業への理解を深めながら地元の味を堪能しました。児童たちは「ごはんはもっちりして菌ごたえがある」「牛肉は柔らかくて甘いタレとよく合う」などと感想を話しました。



約7千食分のだて正夢の新米685^{kg}と登米産牛276^{kg}が給食センター単位で各学校などに提供されました。

平筒沼の生態系を守る 水・いきもの保全隊活動

「第55回すばらしいみやぎを創る運動功績者表彰(団体の部)受賞報告」が12月15日、市役所迫庁舎で開かれました。

水・生き物保全隊(伊藤昭一代長)は、米山町吉田地区の有志により、2013年結成以来、毎年6から9月にかけて、定期的に平筒沼のハスやヒシの刈り取りを実施しており、その活動が「美しい生活環境を創る運動」に当たるとして評価されました。伊藤代表は「今後も、平筒沼の景観の向上や水生植物の過剰繁殖を防ぎ、生態系を守り続ける環境保全に努めていきたい」と決意を語りました。



12月15日、市長への受賞報告に訪れた「登米市平筒沼水・いきもの保全隊」の皆さん。右から2番目が伊藤代表。